

ラオスからの業務用木炭

2016(平成28)年9月28日

ສະບາຍດີ

木炭輸入商社(株)恵山通商

圓谷浩之



お伝えすること



- 木炭のこと

- ラオスからの木炭輸入

- 新たな取り組み（植林など）

ラオスの位置



木炭の種類

黒炭



窯の中で空気を絶って消火。
炭化温度は、800℃前後。
原材料は、主にナラ、クヌギ、カシ等。
炭質が柔らかく、着火が容易で早く大きな熱量を得られるため、以前から家庭用の燃料や暖房用等に使用。
他の用途としては、バーベキュー用や茶道用など。

白炭



炭窯の外に出し、消し粉をかけて消火。
炭化温度は、1, 200℃。
原材料は、ウバメガシ、カシ類等。
炭質が硬く着火しにくいですが、着火すれば、炭質が均一で安定した火力を長時間にわたって得られる。焼き鳥やうなぎの蒲焼きなどに使用。
白炭は備長炭に代表されるが、特に和歌山県産のものは紀州備長炭の銘柄で最高級品とされている。

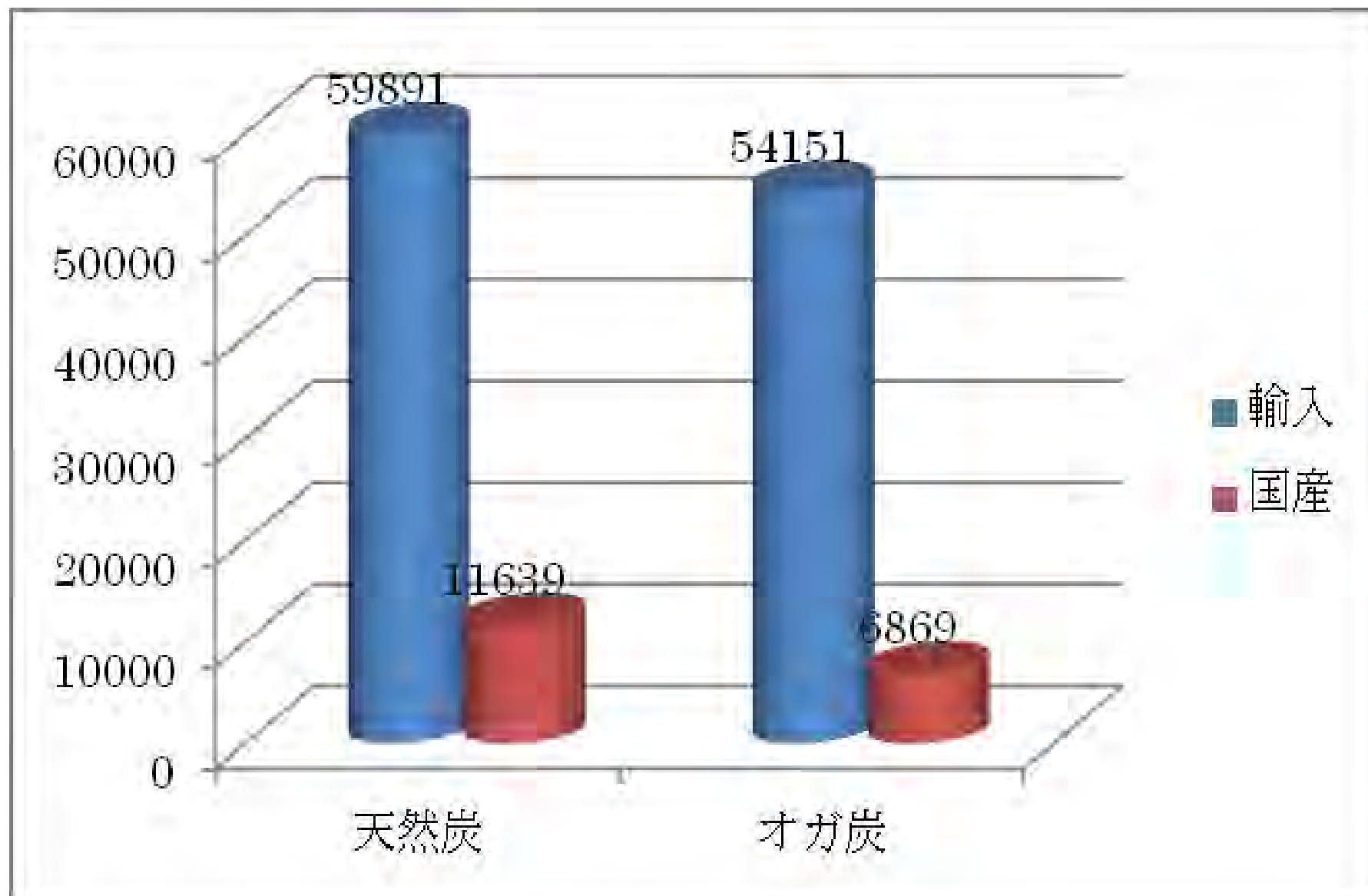
オガ炭



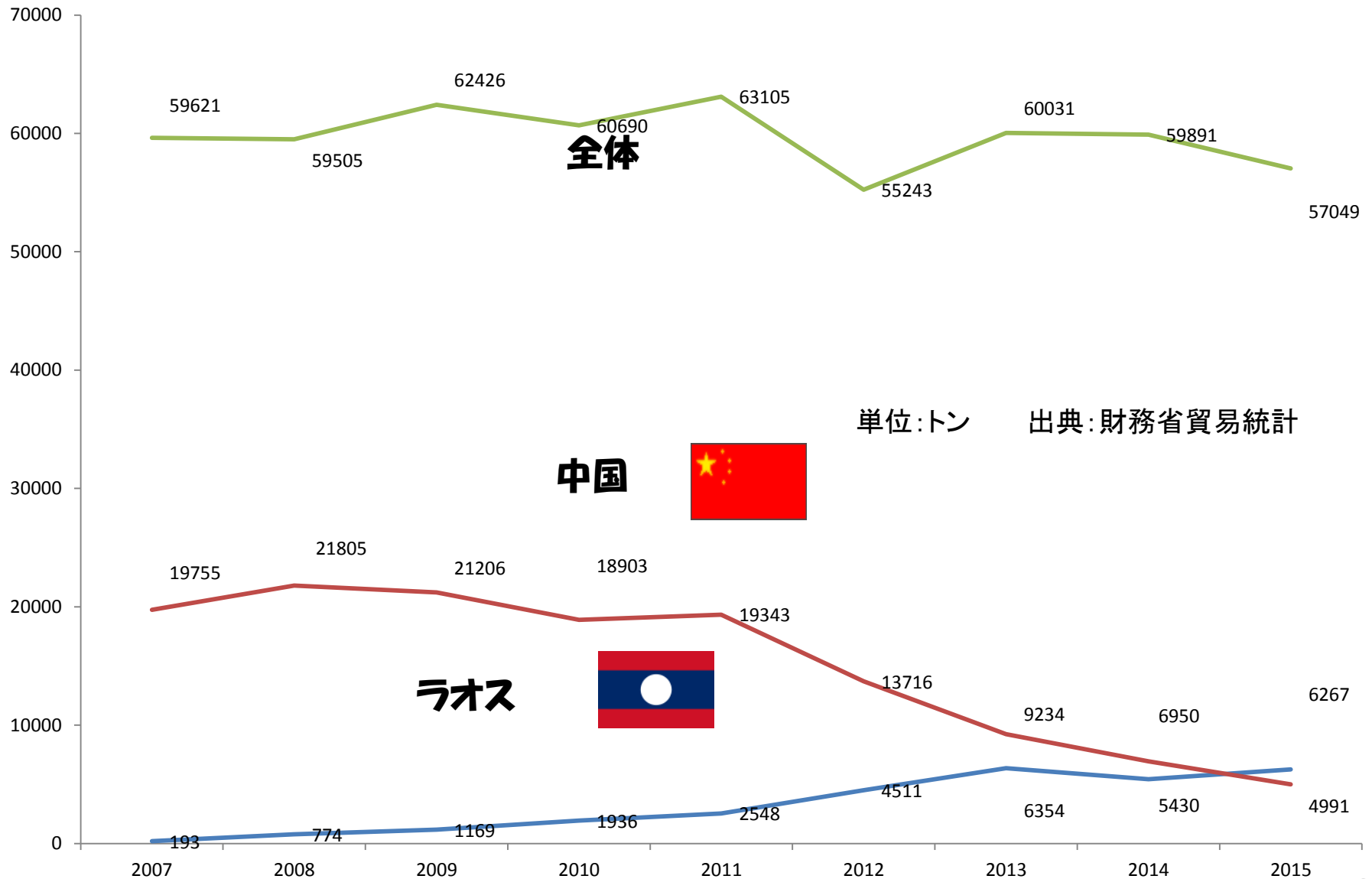
鋸屑や樹皮等を粉碎して高温、高圧力で圧縮形成したオガラライトを炭化したもの。火力は安定している。
備長炭に似た性質を持ち、焼肉や焼き鳥、うなぎの蒲焼きなどに使用。

原図：林野庁のホームページより

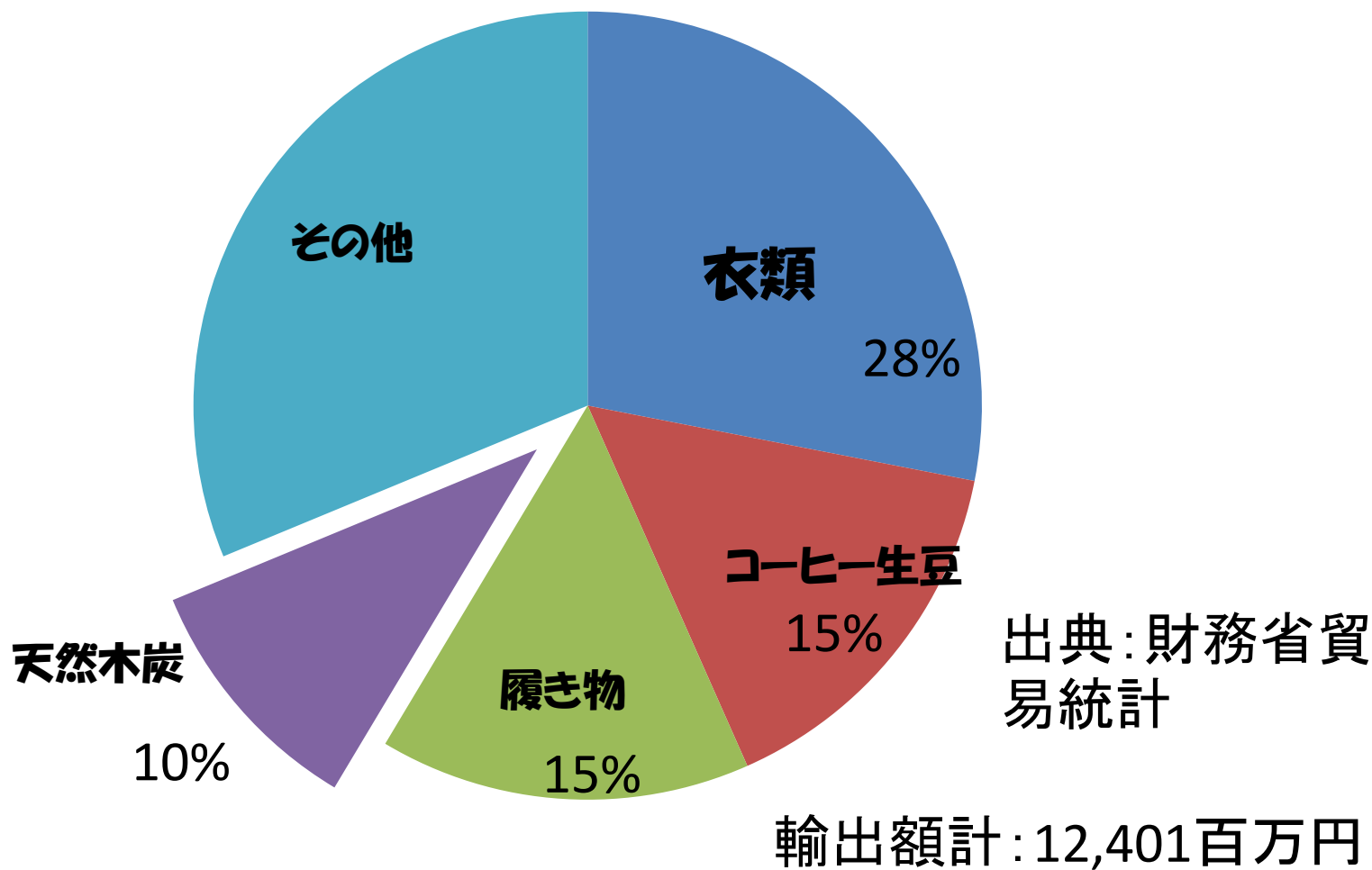
2014年の天然木炭、オガ炭の供給量(単位トン)



2007年度以降の**天然炭**輸入量の推移



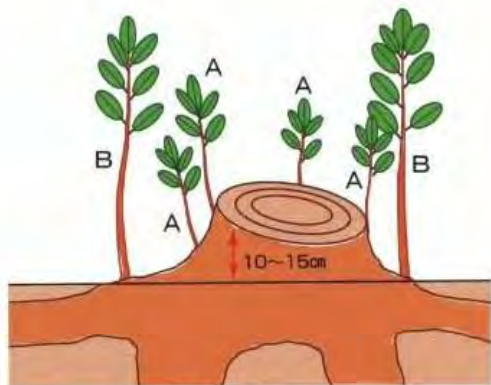
2015年度のラオスから日本への輸出品





上は焼畑1年後、右は3年目

木炭の原木(マイ・テュー、*Cratoxylon* spp.)



萌芽の発生形態

みきぼう が

こんけいぼう が

A : 幹萌芽 B : 根頸萌芽

<http://jifpro.or.jp/bfpro/jushu/jushu-08/228/>

ぼう芽更新で5～6年で再生産

雨季前に伐採

伐採後1～2年

伐採後3～4年



マイテュー白炭の良い点



- ✓ 爆跳性がないこと, そのため、バーベキュー店や焼き肉店などでお客さんの目の前で焼いたり、テーブルに出せる。
- ✓ 中国産に比べて安い (1トン当たり300 \$ 程度安い)
- ✓ 供給量が限られ、一定の品質を維持している
- ✓ マイテューは5年ほどで再生産可能な樹種
- ✓ 直接農民に利益をもたらしている (原木購入は現金支払い)



農民から原木の買い付け(窯横で現金買い付け)

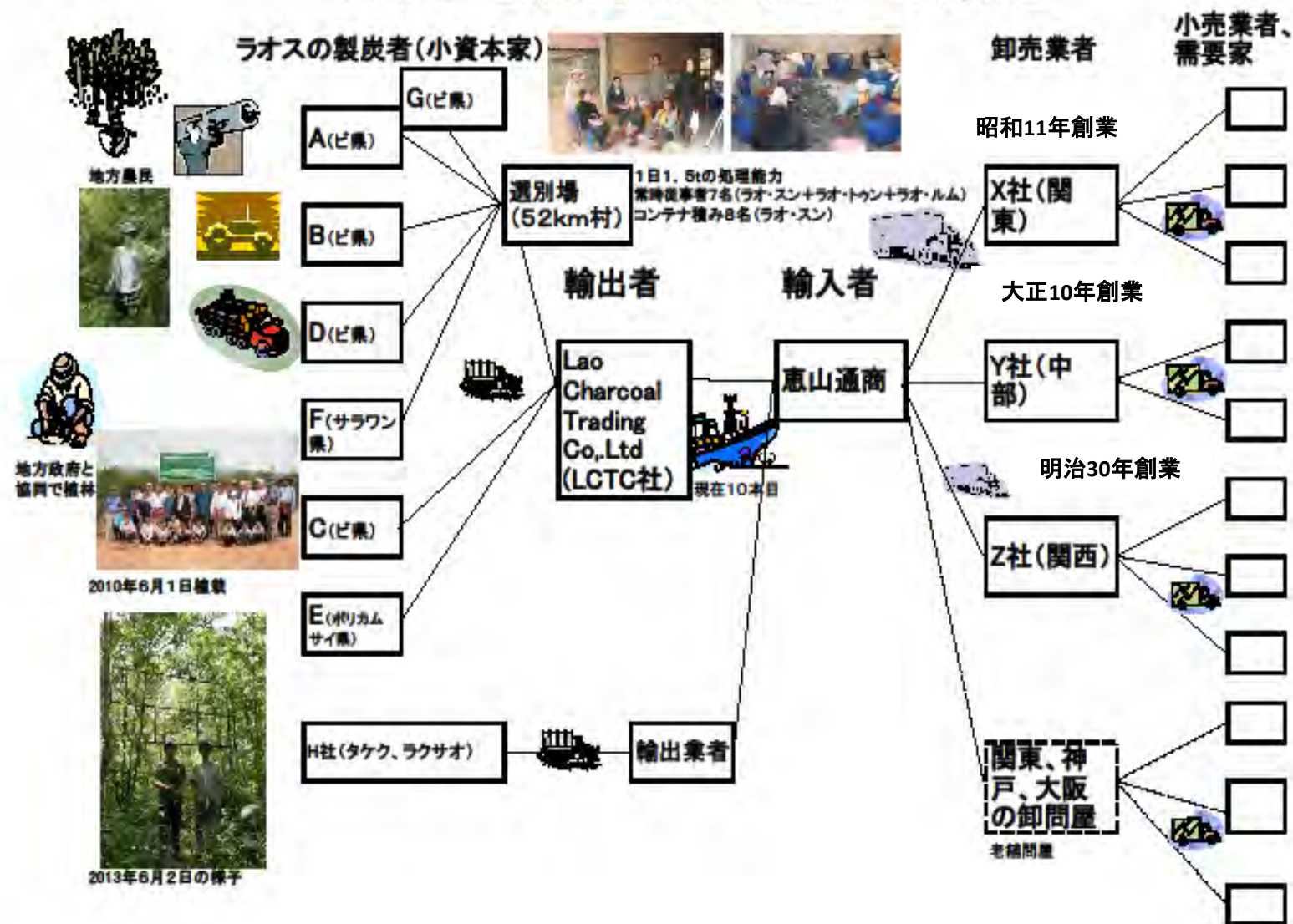


ラオスの白炭製造 12



日本向け仕分け作業

マイチュー白炭のラオスから日本への流れ図





マイテュー挿し木苗畑



マイテュー分収林の住民説明会



2010年の植樹行事



2011年の植樹行事



2013年の植樹行事



2014年の植樹行事



2015年の植樹行事



昨年6月6日両国大使夫
妻、副知事、副大臣など
も参加して植林



今年度内の取り組み

- 植林NPOを設立 10月14日設立総会予定
→理事に某有名大学名誉教授、元特命全権大使など



- 受益者から植林費用の確保
→ラオス白炭1kgあたり1円をメドに植林NPOに寄付を依頼

月4コンテナ(24トン×4)×12ヶ月

=115万円／年 + 寄付金 ÷150万円

- 集めた寄付金でラオスで植林(来年6月予定)

取り組みが行える条件

1. 木炭卸業界は中国の二の舞を避けたいこと
2. 木炭供給量の8割は海外産→業務用はラオスが主流化→輸出側、輸入側でトップシェアを握っていること
3. 古い業界ゆえに
 - (1) 互助の精神が残っている
 - (2) キーパーソンを抑えることができる
 - (3) 外部からかき回されない(忘れられた業界)

今後の取り組み

- 植林することによる天然資源利用税の軽減措置の獲得
 - 1コンテナあたり約620 \$ 程度の負担
(植林費負担は、1kg1円とすると24,000円)
 - 昨年12月に日本向け白炭関係機関の局長クラス
の会議を開催(農林省、財務省、商業・工業省、3つ
の県の局長クラス＋生産者、輸出者)。第2回目を
計画(ラオス側からの連絡待ち)。
 - 会員の獲得
 - 箱に植林のマーク付け



私たちはラオスの森を育てています

～この箱の売上代金の一部を木炭原木の植林や
更新に必要な資金に充てています。～



CO2排出試算(1時間稼働した場合)

木炭

消費量 0.83kg/h
 積算根拠 繁盛店では1焼台に1週間(6日稼働)で2箱(30kg)必要。1日6時間木炭を燃やし続けたとして1週間36時間。30kg÷36時間=0.83kg/時間
 CO2排出量 0kg-CO2/h



日本向け年約6,000トンの木炭を5年回帰で持続的に生産するには2万haの原木林が必要。

電気

消費量 9.0kw/h
 奥津電工社製 電気グリル台 AED-5730
 CO2排出量 4.5kg-CO2/h



2014年度東京電力のCO2排出原単位は、0.496kg-CO2/kwh (2015年7月31日東京電力プレスリリース資料)

LPガス

消費量 0.83kg/h
 LPガス用焼き台 SA18-0
 CO2排出量 2.5kg-CO2/h



LPガスのCO2排出原単位は、3.0kg-CO2/kg 0.496kg-CO2/kwh (日本LPガス協会「プロパン、ブタン、LPガスのCO2排出原単位に係るガイドライン」)

ご静聴ありがとうございました。



ຂອບໃຈ(ຫຼາຍໆ)



hiro.tsubu@nifty.com